

令和六年十一月

晋賢光明

華嚴宗 晋賢光明寺

今月の法話

一、宿曜経に見る十二宮 二、水辺の仏様

一、宿曜経に見る十二宮

朝のテレビ番組で十二星座の占いを見たことがありますよね。最近ではテレビを見ない方が多く、毎日チェックしている方は少ないかもしれませんが、昔から星座占いは定番の占いネタです。昨年は密教占星の基礎である宿曜経から「曜日」についてのお話をいたしました。誕生日は知っていても、生まれた曜日を知らず知らないで新鮮に感じられたのではないのでしょうか。そもそも、この七曜も密教占星から来ているので、知らず知らずのうちに私たち日本人はこの宿曜経に触れながら生活しているのです。

お釈迦様は六神通と呼ばれる神通力をお持ちでしたが、その中にある過去現在未来の三世を見通す神通力である「宿命通」があります。この力があれば私達の持つ様々な不安は取り除かれることでしょう。そのような力のない我々を導くために文殊菩薩が説かれたのが『宿曜経』^{すくようきょう}になります。この経典には十二宮、二十七宿、七曜、七科などがあります。これらの組み合わせでその人の宿命を見るものですが、極めて複雑でありますが今回はその中でも馴染み深い「十二宮」を取り上げて解説していきます。

そもそも十二星座とは正式には黄道十二宮といい、太陽の通り道である黄道帯に位置する星座群を指します。星座には大小ありますが、この黄道帯を十二等分したものが十二宮で、アストロロジカル・サインとも言います。これは古代バビロニアで見出されたものとされ、それが東西に分かれたれ、西はギリシア神話、東は仏教とつながり現在まで残り続けています。

宿曜経における十二宮の呼び名は十二星座と少々異なり、「魚宮、羊宮、牛宮、男女宮、蟹宮、獅子宮、女宮、秤宮、蠍宮、弓宮、磨羯宮、瓶宮」となります。そして、ここが肝心なのですが、これらの暦は「旧暦」で判別します。以下に『宿曜経』の抜粋を意訳したものと、旧暦の対応日を示す。解説は口伝となります。

○獅子宮（六月十六日〜七月十五日）

対応する星は太陽。其の神師子の如し。故に師子宮と名づける。官位や財産を得やすい。この宮に生まれた者は、精神力が強く、生活は豊かで親孝行となる。行軍のような組織だった行動を司るによい。

○女宮（七月十六日〜八月十五日）

対応する星は辰星（水星）。其の神女の如し。故に女宮と名づける。妻、妾、婦人に関わることに縁がある。この宮に生まれた者は、親友を得難いが、子供は多く、見識高く、貧乏になることはすくない。女性と接する職業を司るに良い。

○秤宮（八月十六日〜九月十五日）

太白（金星）がこれに配置される。其の神秤の如し。故に秤宮と名づける。宝庫を司る。この宮に生まれた者は、実直で、公平で正しいことを大切にし、財も多い。歳など預かる仕事を司るに良い。

○蠍宮（九月十六日〜十月十五日）

熒惑（火星）がこれに配置される。其の神蝎の如し。故に蝎宮と名づける。病多く、禁止されることを司る。この宮に生まれた者は病多く、身体が弱く、嫉妬や忌避するを扱う。病患を掌るの仕事に良い。

○弓宮（十月十六日〜十一月十五日）

歳星（木星）がこれに配置される。其の神弓の如し。故に弓宮と名づける。人と慶事を喜び、財を得る事を司る。この宮に生まれた者は、法として計策すること多く、深謀遠慮である。世の中の長となるに良い。

○磨羯宮（十一月十六日〜十二月十五日）

鎮星（土星）がこれに配置される。其の神磨羯の如し。故に磨羯宮と名づける。争い事を司る。この宮に生まれた者は、心は荒く、女性との縁は良くない。刑吏などの仕事に良い。

○瓶宮（十二月十六日〜一月十五日）

鎮星（土星）がこれに配置される。其の神瓶の如し。故に瓶宮と名づける。気が強く、研鑽に励む。この宮に生まれた者は、忠信を好み、学問足りて、蓄財する。学問に関わる仕事に良い。

○魚宮（一月十六日〜二月十五日）

歳星（木星）がこれに配置される。其の神魚の如し。故に魚宮と名づける。官位を得たり、職を司る。この宮に生まれた者は、何かを行う際には長として失敗することは少ない。学があつて、富み、忠実で実直である。役人などの仕事に良い。

○羊宮（二月十六日〜三月十五日）

熒惑（火星）がこれに配置される。其の神羊の如し。故に羊宮と名づける。立派な行いに親しむ。この宮に生まれた者は、福德は多く、長寿にして忍耐強い。食品関係の仕事に良い。

○牛宮（三月十六日〜四月十五日）

太白（金星）がこれに配置される。其の神牛の如し。故に牛宮と名づく。牧畜農業に親しむ。この宮に生まれた者は、福德有つて、親友を得る。長寿にして人から貴ばれ尊敬を得る。牧畜農業などの仕事に良い。

○男女宮（四月十六日〜五月十五日）

辰星（水星）がこれに配置される。其の神夫妻の如し。故に姪宮と名づける。子孫の懐妊することを司る。この宮に生まれた者は、法として恋人多く、人の愛敬を得ること多し。子どもに関わる仕事に良い。

○蟹宮（五月十六日〜六月十五日）

太陰（月）がこれに配置される。其の神蟹の如し。故に蟹宮と名づける。役所や、弁論の事を司る。この宮に生まれた者は、人を陥れることに秀でる。聰明であり、短命なる事が多い。司法に関わる仕事に良い。（詳しくは口伝となります）

これらはすべて方便の門であり、単に自身の生まれた生年月日で運命判断をして、「おー、そうなんだあ」で終わっては全く意味はありません。これらを知り、その上でどのように精進すればよいのかその指針を見出すことこそが文殊菩薩がこの經典を問いた意味でしょう。

この占いで良い宮の下に生まれた人はそのように生きることを目標に据えることが肝要です。逆にあまり好ましくない事が書かれていたのであれば、そうなりやすい傾向があることを自覚して励むことが求められます。共に信仰を深めることを強く勧めるものに他なりません。

また、「前世を知りたければ今世を見よ。来世を知りたくば今世を見よ。」というようにこの世は因果応報の世界です。今を正しく見て、これからどのように善く生きるのかを示すのが仏教のあり方です。私達僧侶はその手助けをすることで仏の道を広めますし、それが修行なのです。遠慮なくお頼りください。

二、水辺の仏様

本年は竹生島宝蔵寺の創建千三百年の年ということで秘仏である弁天様と千手観音様をご開帳されました。私も両方とも参拝に伺いましたが、どちらも素晴らしい尊像で信仰の深さをひしと感じました。弁財天は水辺に住まうとされますが、弁財天に限らず、諸仏と水辺は極めて密接に関わります。特に観音様は海からいらつしやることが多い。二月堂の観音様は難波の海からやってきましたし、神奈川だと観音崎は海運の守護とふたらくとかいして観音様をお祭りしていました。逆に観音様のおわすところに行こうとして死出の旅である補陀落渡海に出してしまう僧侶や在家者も多かったといえます。

水というのは私たちの生命のみなもとであり、深く縁付いているものです。そこに仏様の姿を見出すのは自然なことでしょう。あらゆる自然に合掌する心を持つことは良き生を送るための大切な道標になります。逆に「私が…」という執着こそが不幸せへの近道です。共に手を合わせ感謝の思いを忘れぬように。

合掌

南無日光妙法蓮華經

※十二月の勉強会は令和七年の一年を通しての御霊視アドバイスです。一年の動向を参考にして公私ともに役立ててください。個人年間霊視も受け付けています。

*十一月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺（十一月八日〜十二月七日）※一年通してのラッキーカラーは白色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

十一月のラッキーカラー 金 青 紫 暗剣殺 なし 五黄殺 なし

【お知らせ】

- ① 十二月の勉強会の日程：普賢光明寺（鎌倉）十二月一日（日）三日（火）七日（土）正午より
小田原支部：十二月二十二日（日）午後二時より ※横須賀支部は合同会となります。
- ② 十二月十六日（月）大本山東大寺において開山堂（良弁僧正像）や三月堂執金剛神像等の御開扉がございます。また同日不動堂にて当山僧侶による護摩法を行い、二月堂と大仏殿の特別参拝もいたします。現地集合となりますが、人数の確認が必要です。で別紙にてお申込みください。（詳細は別紙で確認ください）
- ③ 俱利伽羅大龍不動明王初護摩法を令和七年一月二十六日（日）に厳修いたします。初護摩法により神仏のお力を授かり、皆様の祈願成就と来年一年の厄除け（星供養）をご祈念いたします。
- ④ 毎年年末に行われる煤払い（本堂等の掃除）は十二月一日（日）勉強会前に行います。集合八時
お忙しい時期ではありますが、心を磨く観音道場のお清めとなりますので是非ご協力をお願いいたします。
- ⑤ 仏像彫刻教室：十一月十七日（日）十二月八日（日）十二時より十五時まで。